

企業価値を生むコミュニケーション

わからない・つたわらないから気づいた

# 伝え方の原点

講師



NPO法人 Silent Voice

代表  
理事

尾中 友哉 氏

デフを助けるのではなく、助け合うことが新たな企業価値を生む。

1924 年の第 1 回パリ大会から 100 周年を迎える今年、日本で初めてデフリンピックが開催されます。デフ Deaf とは英語で「耳がきこえない」という意味で、デフリンピックは「聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック」です。インターネットやスマートフォンなど技術の進化は障がいのある方々の可能性を広げていますが、社会は、企業は、そして私たちは同じスピードで変わっているのでしょうか？

デフと聴者が共に働く企業向けコンサルティングを行うと共に、聞こえない・聞こえにくい子どもたちの安心と成長を支援する NPO 法人を運営する尾中氏を講師に迎え、わからない・つたわらない関係から気づいた伝え方の原点、企業価値を生むコミュニケーションについて伺います。

日 時 2025 年 12 月 15 日 月  
14:00 ~ 15:30

会 場 蒲郡商工会議所 蒲郡市港町 18-23

参加費 無料

参加対象 どなたでも

FAX 0533-68-0339 一般社団法人 東三河法人会蒲郡支部 宛

事業所名

参加者名①

参加者名②

TEL

Mail



オンライン申込



## 尾中友哉

1989年滋賀県大津市出身。ろう者の両親のもとに生まれた聞こえる子ども（コダ）として、母語として手話を身につける。平成30年間の家庭内の生活変化の大きさと社会の変化の小ささに疑問を持ち SilentVoice を創業。2018年人間力大賞 内閣総理大臣奨励賞受賞。映画『ヒゲの校長』では主人公高橋潔役を演じた。

NPO 法人 Silent Voice

## 代表 尾中 友哉 の 原点

### 「聞こえないせいで、自分の夢を諦めた」――

ろう者の父は、進学も仕事も選択肢が狭められた悔しさを胸に生きてきました。一方で、同じくろう者の母は周囲の反対を押し切り、夢だった喫茶店を開きました。16年にわたり黒字経営を続ける母に、周囲の見方が徐々に変わっていきました。そんな両親のもとに「聞こえる子」として生まれた私は、ある日ふと両親に問いかけました。

「聞こえるようになりたい？」

父は「なりたい」と即答しました。母は「自分を変えたくない」と言いました。同じ“聞こえない”という状況でも、そこにはまったく違う捉え方がありました。私は、聞こえないこと自体が不幸なのではなく、環境によって違いが生まれると気づきました。“受け止めてくれる環境”の有無が、自己肯定感や人生の選択を左右しているのだと。

しかしながら、現在の社会には、そんな環境がまだまだ足りていません。



ろう難聴児は、子ども1000人に1人程度、親の9割は聞こえる人、聴覚支援学校は21県が1校しかなく共働き世帯の増加で遠くて通えない問題も起きています。対象数の少なさから教育系企業も手話のできる先生を付ける動きはありません。福祉施設も“通うこと”が前提なので、都市部以外はほぼありません。そこに構造的な孤立があるのです。

私たちはオンライン支援によって、この構造を変えられると考えています。全国どこにいても安心して話せる支援者に会える。今の時代だからできる支援を当たり前にしたい。ぜひ地域、業界、社会を牽引するリーダーの皆さまのお力を貸してください。

## Silent Voice が取り組む社会課題

### 教育格差

ろう難聴児は、大学進学率が全国平均の約1/3。仲間や支援に出会えないまま孤立しやすい現実があります。



### 就労格差

ろう難聴者の離職率は高く、昇進経験も限定的。働く上での「伝わる・わかる・つながる」環境が不足しています。



### 社会認識の遅れ

テクノロジーの進化に比べ、社会の理解や制度の更新が追いついていません。



## Silent Voice の活動

### デファカデミー

放課後や週末に、ろう難聴児が安心して学び、仲間と出会う居場所を提供



### サークルオー

支援の乏しい地域へのオンライン支援。全国各地のろう難聴児が、学び・つながれる環境づくり



### デフビズ

企業と連携し、聞こえない社員がスキルを発揮できる職場環境を構築



SNS はこちら



団体  
Facebook



団体  
Instagram



代表尾中  
Facebook



尾中友哉が登場した  
TEDx トークの  
映像はこちら

